

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「つなぐ」＝『自らの成長を自覚し、適切に行動できる 岡津っ子』
①教材と児童、児童と児童、児童の過去・現在・未来 ②学校、家庭、地域
「知」一人ひとりが学ぶ楽しさと創り出す喜びを感じて自分の学びを大切にし、自主的に学び続ける子を育てます。
「徳」他者を思いやり、規律を守って集団行動をしながら互いのよさを認め合う子を育てます。
「体」心と体の健康を大切にし、自分や人の生命を大切にすることを育てます。
「公」地域の人とのコミュニケーションを通して地域社会の活動を大切にしようとする子を育てます。
「開」様々な人とのコミュニケーションを通して自然や社会に目を向ける子を育てます。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

Table with 2 columns: 資質・能力 (自分づくりに関する力) and 具体化した資質・能力 (基本的な生活習慣を身に付けようとする態度, etc.)

中期取組目標

〇「自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子」の実現を目指して、保護者や地域と連携しながら、『一人ひとりが大切にされ、主体的に考え行動できる児童の育成』を推進していく。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、不断の授業改善を行うことで学力向上を図っていく。
・すべての児童が安心して登校し、学校に居場所がある実感をもてるような児童指導を行う。
・心と体の健康に興味をもち、自ら意識して生活習慣・運動習慣・学習習慣を身に付けることができるようになる。
・社会性・道徳性を6か年の中で、段階的に身に付けることができるようになる。
・キャリア教育の視点をもち、子どもたちが自分自身のなりた姿を具体的にイメージすることができるようにする。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きて働く知) and 具体的取組 (1 「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実践し、基礎・基本をしっかりと身に付けることができるようにするとともに、主体的に考え、意欲的に学び続けることができるような態度を身に付けられるようにする。)

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
生活意識や学習意識は学年のばらつきはあるものの、全体的に市平均に近づく傾向がある。生活指導や特別支援教育に力を入れている成果は表れている。しかし、学力面は横浜市の平均を大きく下回っている。児童の意欲と学力の定着に相関関係がなく、基礎学力、活用に関する学力の両分野の定着に課題を残す。また、学力層Dに属する児童が相対的に多く、指導に困難を極めている。特定の学年に顕著な傾向が表れている。



(2) これまでの学校の取組状況
〇わかる授業、楽しい授業の確立
身近な地域素材をもとに楽しく分かりやすい学習の実践を通して、児童が意欲を高めたが主体的に取り組める授業を行う。児童自らが「成長の意欲」を意欲できるように指導を継続的に進めていく。
基礎・基本の定着を図ることで、児童が「分かった」として「楽しい」となるような学習を進めていくために児童理解と教材開発を積極的に行い、教職員の授業力を高めていく必要がある。特に、発問と板書指導に力を入れ、「学習のめあて」「話し合い・意見交流」「まとめ」が明確になるようにする。

今年度の目標

自らの成長を自覚し、社会や生活に生かそうとする資質を育むカリキュラム
～「主体的に学習に取り組む態度」をどのように育てるか～

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期 and 下半期, detailing specific action plans for learning improvement.

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (1 自己肯定感・自己有用感を高め、自分をかけがえない存在として大切にすることを養う。)

豊かな心に関わる本校の状況

児童は、素直でまじめな子どもが多く、明るく前向きで、ルールやきまりを守ろうと頑張ることができる。しかし、自分から進んで行動することが苦手であり、周りを見て判断することが難しいところがある。また、表現力が乏しく考える力が弱いところがある。そのため、学習面や生活面において、実力があるにもかかわらず自分に自信をもてずに自己肯定感が低い児童も多い。
友だちに対して優しい面を示す児童も多く、教えてあげたり一緒に進めてあげたりする児童もいる。そのことが自己有用感につながるようになっていきたい。コロナ禍において、ペア学年の異学年交流ができていない。今までのペア学年の活動では高学年が自己有用感を高める活動ができていたため今年度はペア学年を少しずつ開始し活動を充実させたい。

今年度の目標

・ペア学年での仲良し活動を年間を通して行い、異学年交流を通してそれぞれの立場を生かした活動を進め、思いやりの心を持って育てる。
・学力向上と児童指導の充実を図るためのサポート体制の充実

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期 and 下半期, detailing specific action plans for social and emotional development.

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (1 運動する機会を増やし、体を動かす習慣付けを図る。年間を通して縄跳びや持久走に取り組み、基礎体力の向上を図る。)

健やかな体に関わる本校の状況

・朝食の摂取率は、市の平均とほぼ同じであり、朝食をしっかりと摂っている児童がほとんどである。
・運動時間は市平均に比べて多いものの、学校全体を見ると体を動かすことを楽しむ児童と、そうでない児童との二極化が見られる。
・放課後に習い事等で運動に取り組んでいる児童が多く、地域のスポーツ振興が充実していると考えられ、市の平均を上回っている。
・休み時間は鬼ごっこなど走る遊びが多く人気がある。また、地域に公園が多数あり、体を動かす機会が多いと考えられる。
・コロナ禍の中で運動がなかなかできない状況であったが、50mや立ち幅跳びなどの結果が市の平均を上回り、体力もある児童が多い。これは地域でのサッカー、野球、バスケットボールなどのスポーツ振興が盛んであることが考えられる。しかし、反復横跳びや長座体前屈が市の平均を下回っている。敏捷性と柔軟性がなく、けがや事故の原因となっていることもある。
・今後、縄跳び運動などを充実させて敏捷性を高めたり、体育の授業の前後にストレッチを取り入れたりして柔軟性を高めていく。また、ソフトボール投げも低いので投げる運動も取り入れたい。

今年度の目標

体力向上を目指し、運動する機会を増やす環境づくりの充実
敏捷性・巧緻性の向上

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期 and 下半期, detailing specific action plans for physical education.